

# 東アジア連続講演会 第5回 「2000年女性国際戦犯法廷」を どう受け継ぐのか



女性国際戦犯法廷について：2000年法廷は、加害国日本のVAWW-NET ジャパン（現VAWWRAC）の提唱と被害国の支援団体と協働により、被害女性64人と8カ国の検事団・女性団体、グローバルな市民たちとともに、東京で開廷された。法廷の目的は、被害者の正義を求める声に応え、日本軍性奴隷制への加害責任者を証拠

に基づき国際法で裁き、現在もつづく性暴力「不処罰」の連鎖を断つためであり、さらに、その背景にある日本の侵略と植民地支配、つまり植民地主義を問うものであった。最終判決では、日本軍・政府が「人道に対する罪としての強かんおよび性奴隷制を実行した」と明確に認定した。なお、10周年シンポジウムが東京外国語大学で開催され、今年の12月に20周年シンポジウムを予定している。（<http://vawwrac.org/> 参照）

◆ 日時：2020年10月28日（水）17時から

◆ 会場：東京外国語大学中会議室

（ZOOMにて同時開催）

★プログラム★

解説：金富子（東京外国語大学）

上映会：沈黙の歴史をやぶって 女性国際戦犯法廷の記録

（「女性国際戦犯法廷」国際実行委員会、VAWW-NET ジャパン、

制作・著作：ビデオ塾、VAWW-NET ジャパン、2001年、64分）

◆ 一般公開

◆ 事前申し込み必要

報告：金富子、中野敏男（東京外国語大学名誉教授）



松井やよりさん（1934～2002）東京外国語大学英米科を卒業。「アジア」と「女性」をテーマに、生涯、グローバルな視野で活躍したジャーナリスト・活動家の松井やよりさんは、アジア女性資料センターを1994年に設立し、2002年に亡くなるまで代表をつとめた。1994年に朝日新聞を定年退職後、アジア女性資料センターを設立し、本格的なNGO活動を始める。1994年3月「女性の人権アジア法廷」、1994年10月「東アジア女性フォーラム」、1995年「『ODAとアジア女性』国際会議」、1997年10月「『戦争と女性への暴力』国際会議」など、いくつもの国際会議を成功させた。なかでも松井さんの提案により、3年の準備期間を費やして2000年12月に開催された「女性国際戦犯法廷」は国内外で大きな反響を呼んだ。（アジア女性資料センターホームページより抜粋）

◆ 事前申し込み方法 ◆

以下のリンク先またはQRコードより事前お申し込みをお願いいたします。

1. 会場でのご参加の方（先着順15人まで）：<https://forms.gle/wPZcx6tD6ddG1n6c9>



2. オンラインにてご参加の方：<https://forms.gle/oYGJSqGgv1kBLA6H8>（締切：10月27日

10時まで）事前お申し込みをされた方に限り、講演会の前日（10月27日）、ZOOMリンクと案内文送信。

お問い合わせ先（国際日本研究センター）Tel: 042-330-5794 E-mail: [info-icjs@tufs.ac.jp](mailto:info-icjs@tufs.ac.jp)